

保護者の皆さま

令和4年(2022年)11月11日

豊能町立東ときわ台小学校
校長 張 裕 太 郎

令和4年度(2022年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組みについて

向寒の候、保護者の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、4月19日(火)に悉皆調査として実施しました6年の「全国学力・学習状況調査」の結果分析を行いました。本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成19年度より実施されています。理科については新学習指導要領が全面実施されてから初めての調査でした。本校においては調査人数自体が少ないため、統計の数字だけで良い・悪いを判断しづらい面もありますが、課題については、校内で共有し、改善に向けて取組みを進めてまいります。

以下に、今回の結果分析から見えてきた「プラスの面○」「マイナスの面●」および「課題克服に向けての取組み」をまとめましたので、ご家庭でも話題にいただけますよう、よろしくお願い致します。

なお、豊能町教育委員会による町全体分析結果は、本町HPにて公表されています。また、全国学力・学習状況調査の問題・調査用紙やその分析結果は、国立教育政策研究所HPで公表されています。それぞれご覧ください。

1. 学力状況調査の結果から

学力状況調査の結果は、国語・算数・理科の全ての教科で府・全国平均ともに上回り、全体通して概ね良好でした。しかし、更なる努力が必要な項目もありました。

国語

○ほとんどの問題の正答率は府・全国平均を上回っている。特に「読むこと」の領域では、大きく上回る結果が見られた。

○記述式の問題で、府・全国平均の正答率を大きく上回る結果が見られた。

●無解答率は低いが、約半数の問題で無解答が見られた。

●漢字の正答率は高くない。

「課題克服に向けての取組み」

◎視点に気付かせる発問・問い返しなど、必要感のある言語活動の充実

・言葉には、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる働きがある。話し合いにおいては、相手とのつながりをつくる働きのある言葉を適切に用いながら、進めていくことが大切である。言葉の働きに気付くことができるようにするために、学習の振り返りの場面などで、自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定する。

◎お互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる指導の充実

・考えをまとめる際には、異なる意見を自分の考えに生かせるように「～という意見もあったが」「～という考えもあり」などの表現を用いられるようにすることが大切である。話し合いの目的や方向性を検討する場面を設定したり、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理する方法を指導したりする場面を設定する。

◎漢字学習については、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章の中で正しい使い方を習得できるよう指導していく。また、漢字を使って文章を書く機会を意識して設定し、漢字を活用しながら自分の考えを書くなど生活に根ざした学習を通して、漢字の定着をめざしていく。

(右上に続く)

◎問題に対する「無解答」を克服するために、長文や少し難解な問題に試行錯誤しながらでも粘り強く取り組もうとする意欲や態度を、日々の学習の中で育てていく。

◎読書習慣の定着が、「読むこと」の結果にも表れている。今後も指導を継続していく。

算数

○多くの問題で、正答率が府・全国平均を上回っている。特に「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域では、大きく上回る結果が見られた。

○これまで課題があった記述式の問題については、府・全国平均を上回り概ね良好であった。

●無解答率は低いが、約半数の問題で無解答が見られた。

●算数の基礎基本ともいえる「数と計算」の正答率が、府や全国平均は高かったが、本校の正答率は高くなかった。特に、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること(1(4))に課題が見られた。

「課題克服に向けての取組み」

◎目的に応じて数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考察することができるようにする指導の充実

・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときには、目的に応じて数を大きくしてみたり小さくしてみたりして、概算できるようにすることが大切である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようすることが必要となる。

◎指導方法の工夫改善

・基礎基本は概ね身につけているが、例えば、「1050×4」を計算する基本的な問題(1(1))では、府・全国平均とも下回るなど、課題もある。反復練習によって体得するものを軽視することなく、繰り返し基礎的基本的問題に取り組むことも大切にしていく。

・これまで同様、算数の各単元に対して今後も十分な習熟をはかる一方で、課題を見つけて筋道を立てて考え、求め方、理由などを言葉で表現する力、結果をもとに考察する力をつけ、学習したことを文章でまとめる機会を、より多くつくる。また、目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えをまとめて文章に書き表す指導をしていく。

理科

○ほぼすべての問題で、正答率が府・全国平均を上回っている。

○記述式の問題については、府・全国平均を大きく上回る問題もあった。また、記述式問題の無解答率も低かった。

●全般的に無解答率は低いが、短答式の問題で無解答が見られた。

●器具の名称を答える問題(2(1))の正答率が府・全国平均を大きく下回った。また、この問題の無解答率も高かった。

「課題克服に向けての取組み」

◎観察・実験等に関する基本的な知識・技能を身に付けることができるようにする。

・理科の基本は、観察・実験・考察であると考えますが、コロナ禍の中で「そもそも密になる」「器具の消毒作業を伴う」等により、動画で確認する機会が多くなり、特に実験について消極的であったのは否めない。観察、実験などに関する基本的な技能の習得、また、観察、実験などを通じて考察し、自然の事物・現象について理解を図ることは、学校の授業以外の場では困難と考えられる。今後もコロナ対策を行う中で、課題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して考察するといった科学的に探究する学習活動を大切にしていく。

◎観察や実験を行う際、見直しを立てながら予想し、予想と違う結果が出たりグループによって違う結果が出たりした場合にどうして違うのか、本当はどうなのかを関連付けて考えることができるような指導の充実を行う。

◎観察・実験などで得られた結果について分析・考察することによって、より妥当な考えを作り出すことができるようにする。そのためにも、結果などから導き出すために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えを持ち、それらを他の人と話し合う機会を多く持つようにする。

2. 学習状況調査の結果から

本校の今年度の学校教育目標は「一人ひとりを大切にし、ともに学び・活動する喜びに満ちた学校」、今年度のスローガンは「たくましく(自立・挑戦) しなやかに(つながり・協働) のびていく(探求・創造)」です。児童質問紙から、子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識の調査結果から見られる特徴に加え、本校の目標と関連の深い項目を取り上げました。これは、保護者・地域の皆さまに、本校の子どもたちの学習の状況をお知らせすることで、本校の教育に更なる関心を高め、地域ぐるみで子どもたちの育ちを支え、今後の充実・発展につなげたいと考えたからです。課題については、校内で共有し、今後も改善に向けて取り組んでまいります。(以下、調査結果を基に本校の分析・考察を述べておりますが、この分析・考察はあくまでも一つの側面です。)

肯定的な意見の多かった項目

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

→これからも、児童自身の日々の振り返りに加え、児童一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、積極的に評価していくことを大切にします。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

→ほぼすべての児童が「いけない」と判断しており、規範意識の高まりが見られます。府・全国平均と比べても高い傾向が見られます。一方で、全ての児童が、いじめはどんな理由があっても許されない行為であるという強い認識を持つよう、全教育活動を通じた指導を継続していきます。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

「人が困っているときに、進んで助けていますか」

→日頃から、学級や縦割り活動、家庭・地域を含め、自分の周りの人との関わりを持つことがあり、その中で人のために、世の中のために頑張りたいと思っている姿が感じられます。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」

→教室の仲間と「ともに学び・活動する」意識が高いことがわかります。

○「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか」

「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事の先生は除く)」

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」

→自分が住んでいる地域の良さを知り、地域の方々とも過ごす機会が多く、愛着があることがわかります。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」

「国語の授業の内容はよく分かりますか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

→各教科の授業に対して肯定的に捉えられているといえます。

肯定的な意見の少なかった項目

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」

「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く)」

→ともに「4 時間以上」と答えた割合が府・全国平均より高かったです。その他の「1時間以上」などの時間の回答も、府・全国平均より割合が高いものが多かったです。

●「自分には、よいところがあると思いますか」

(右上に続く)

→謙虚さや控えめな面、よいところと考える基準が個人で異なり自己に厳しい判断をしている、などが表す結果と捉えることができる一方で、失敗を恐れる、他人との比較をしてしまう、なども考えられ、看過できない側面もあります。

●「学校に行くのは楽しいと思いますか」

→割合としては低いわけではありませんが、全ての児童にとって、学校に行くのが楽しい、と感じられるよう、全教育活動を通じた指導を継続していきます。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」

→府・全国平均を下回っており、課題として捉えざるを得ない結果でありました。学習習慣や学習の積み重ねが「学力の伸び」につながることから、改善が必要だと考えます。

●「理科の勉強は大切だと思いますか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」

「理科の授業で学習したことは、普段の生活の中で活用できないか考えますか」

→学習に関する質問の中で、理科に関する質問の回答は全体的に肯定的な回答は多くなかったです。表面「理科：《課題克服に向けての取組み》」でもお伝えしているように、課題克服に向けての取組みを進めていきます。

《課題克服に向けての取組み》

◎子どもたちの『学ぶ意欲』をはぐくむ取組みの更なる推進

学習意欲は、基礎的・基本的な知識・技能やそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高める上での基盤となるものです。確かな学力の構成要素である知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成とのバランスを重視することとともに「授業形態の工夫や学習方法の具体的説明など、どの子もわかるような基礎的な環境を整える」「学習する動機付けや好奇心をかき立てたり、やる気を引き出したりする工夫をする」「児童生徒の取組みや成長を適切に評価するとともに、達成感を実感することができる場面をつくる」などにより、児童の学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養い、家庭との連携を図りながら学習習慣を確立していきます。

◎主体的に自力解決することを大切にして、説明する力を伸ばす、経験値を高める取組み

学習の場面や学校行事、学級での取組みなどで、まだまだ受け身になりがちな子どもたちの姿が見られます。そのため今後も、自分で問題を解く力、自分の考えを表現する力、自分の考えを深め広げる力を意識した取組みをもちます。自分たちで学級活動を計画・準備・実行する場面では、話す・聞く能力や話し合う能力が必要となります。低学年からつけるべき力を見定め、高学年になるまでに系統的に経験できるよう、また、繰り返し経験することで、自主性・計画性を身に付けるとともに、これらの能力を向上させていきます。加えて、異学年交流による取組みにより、より相手意識をもたせ、立場の違いを知る、相手の気持ちを読む、自分の考えを伝える、いろいろな考えに触れる、全員の考えをまとめる、解決策を考える、協力して実践する、などの力を培っていきます。

◎家庭や地域との協力

・学校はもちろん、家庭や地域におかれましても、子どもたちの話をたくさん聞いていただくことを、引き続きお願いします。特に、子どもたちは聞き手が内容について興味や関心をもって聞いてもらっていると、さらに話す意欲が向上します。また、目を見てしっかりと話しを聞いてもらえると「わかってもらえた」という感覚が沸き、自己肯定感も高まり、学習意欲につながります。是非、ご家庭・地域におかれましても、ご協力をよろしく願いいたします。

・授業以外の学習時間やテレビゲーム等をする時間と、教科の平均正答率の間には関係があります。確かな学力を身に付けるには、テレビゲーム、動画視聴の時間を見直したり、自主的な学習を計画したりするなど、授業時間以外の学習習慣を定着させることが大切です。家で過ごす時間が増えている中、今まで以上に家庭と学校が連携・協力し合っただけなお子さまを育てていくことが重要です。そのためにもご家庭での過ごし方について、また、テレビゲームや携帯電話、スマートフォンを使用する時間などについて、家庭でのルールづくり等、今一度お子さまとお話し合いください。加えて、お子さまの日々の学習ノートや宿題をご覧いただき、見守り、励ますなどの声かけ、家庭学習や読書時間の確保も、各家庭で取り組んでいただきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。